

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第5回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	平成30年10月4日(木) 18時30分～20時30分
開催場所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1) アンケート調査結果の最終報告について (2) 次期計画に係る素案について (3) その他 今後のスケジュールなど
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	青山委員、金川委員、鹿庭委員、北岡委員、島田委員（副会長）、多田委員、田中委員、谷委員、橋本委員（会長）計9人 （欠席6人 甘利委員、鎌田委員、木ノ下委員、林委員、水嶋委員、若井委員）
傍 聴 者	0 人 （傍聴席4人程度を確保）
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 087-839-2636

審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。また、会議に先立ち、橋本会長から本日の会議について、原則公開とすることを説明し、出席委員全員がこれを了とした。

(1) アンケート調査結果の最終報告について

今回資料として配布した市民アンケート調査結果報告書を最終報告とし、前回の審議会での議論を踏まえ、主要な点について事務局より説明を行い、次のとおり意見があった。

<アンケート全般>

(委員)

- ・時代とともに、文化の内容も変化しており、その点を考慮していくべき。
- ・年齢層に偏りが見られる。70歳以上の方が多い。
- ・職種では公務員のコメントが多い。異なる層の意見を反映できるよう工夫が求められる。
- ・20歳から40歳の回答者のコメントが、他の年齢層に比べて手厳しいものが多いように感じるため、次期計画では、そういった層にもアピールできるような構成内容を検討すべき。

(事務局)

- ・回答の選択肢に、その他（ ）を追加し具体的な記載ができるようにしている。
- ・次回のアンケート調査は、内容を含め、いつ実施するか、どのように計画に反映させていくかは、今後の検討課題。

<情報発信について>

(委員)

- ・高松市の文化芸術の取組みに対する満足度の設問で、満足していない、興味がな
いとの回答が一定数ある。また、情報発信・提供に関する要望が多かったことから、何か今後工夫していく考えはあるか。

(事務局)

- ・広報やSNS等を活用した情報発信を行っているところだが、それぞれの年齢層に合わせた情報発信の仕方を分析、検討していきたい。

(2) 次期計画に係る素案について

次期振興計画の素案におけるポイント、目標、体系、現計画からの変更点、新規登
載事業等について事務局から説明を行い、次のとおり意見があった。

<自立した文化>

(委員)

- ・予算額に左右されない、文化が自立する仕組みを構築することが重要。例えば、
地元産業と連携して、お互いが活性化し、ビジネスに発展させていくような仕組み
を、長期的な視点で積極的に後押ししていくことが必要。
- ・産業や食等、文化芸術ジャンルからはみ出すような領域との連携を積極的に求め
ていくべき。

<プラットフォーム事業>

(委員)

- ・新しいアイデアを活発に出せる場があればいい。
- ・アートディレクターに代わるものとして、次期計画ではプラットフォーム事業が
検討されている。各分野の人達が気軽に出会い、新しいものを生み出せるような事
業運営をしてほしい。
- ・プラットフォームの中で、伝統等の既存の文化芸術活動を大事にしながらも、
食・産業等、様々なものとリンクし、別の角度から光を当て、さらに創造的な取組
みに発展させる仕組みを行政と民間でつくるのが理想的。そうすれば、自分も参
加してみたいという、文化芸術活動に対する機運の醸成にもつながる。

<次期計画 4つの方針>

(委員)

・次期計画の4つの方針である 1. はぐくむ・いかす、2. であう・ひろがる、3. つなぐ・あむ、4. つたえる・たのしむ について、変更する可能性はあるか。

・1. はぐくむ・いかす (1) 人材育成の中に、例えば、施設を一定期間無料開放して、自分のパフォーマンスや作品等を発表できるような、未成熟でも新しいチャレンジを応援する発表の場を設けて欲しい。新しいアーティストが生まれる下地になる。

(事務局)

次期計画においては、これまでの議論を踏まえ、4つの方針は踏襲する。デザインを含めた計画の策定に当たっては、より施策がイメージしやすいものを目指している。

<コミュニティセンターにおける文化芸術活動>

(委員)

・現在、コミュニティセンターを中心に、地区の子ども（保育園・幼稚園児）と高齢者を対象に、一緒に木の葉等のアート作品を制作する活動（えのぐちゃんプロジェクト）を行っている。異なる世代をつなぐ活動をとおして思うのは、文化に興味がない人にも実際に体験してもらうことの大切さ。体験を通じて、参加者に楽しんでもらい、身近に感じてもらった方が、文化は育っていく。また、偶然コミュニティセンターを訪れた人を巻き込んで、文化芸術に興味を持ってもらったり、噂を聞いた子ども達の母親が、作品を見ようと足を運んでくれたりと、思いがけないところから、広がりができ始めている。

・コミュニティセンターでの活動はかなり活発な印象を受け、注目すべきものがある。アーティスト等の派遣により、それをさらに活性化させ、地域に波及させることも検討してはどうか。

・各コミュニティでも高齢化が進んでいるため、今後活動が限定的になってくる可能性がある。その場合、こういった形でサポートできるか検討しておく必要がある。

(事務局)

・コミュニティセンターは各地区の生涯学習やまちづくりの拠点として機能してきた経緯があり、それぞれの地区の文化が花開いている。市の事業としても、生涯学習課がコミュニティセンター講座を実施し、各種講座やワークショップを行っている。文化芸術の素地が形成されており、そういった取組みを習慣として育てていくと同時に、計画を策定し、計画的・総合的に推進していくことが重要だと考えている。

・高松市文化芸術財団が市の受託事業として、コミュニティセンターを会場に、デ

リバーアートを実施するケースもある。

<創造的ワークショップ推進事業（仮称）>

（委員）

- ・人材育成をしていく中で、産業と文化の連携事業等と関連付けたりするなど、長期的な視点が必要。
- ・文化の担い手の増加、後継者育成の観点からも、子どもを対象にしたワークショップを行うことが効果的。

<文化奨励賞受賞者記念披露事業（仮称）>

（委員）

- ・概ね3年毎に実施予定となっているが、高松市文化奨励賞の表彰は毎年行われるのではないかと。また、新人部門と顕彰部門に分かれているが、同時に実施するのか。

（事務局）

- ・まだ案の段階であり、具体化できるかどうかはまだこれからの話になるが、予算上の制約も予想されることから、ひとまず3年としている。以前は、文化奨励賞受賞者に発表の場があったと聞いており、広く市民の方に知っていただく意味でも、実施していきたいと考えている。新人部門と顕彰部門、同時に実施することを考えている。

<数値目標について>

（委員）

次期計画の数値目標について、設定値の根拠を知りたい。

（事務局）

アンケートの実施状況踏まえて、目標値をやや下げている。現状値のまま据え置き、到達できれば理想的だが、アンケートの結果を勘案し、現実的な数値に設定し直している。

（3）その他 今後のスケジュールなどについて

次回の審議会において、今回の議論を踏まえ、より具体的な次期計画の素案を示すこととなった。また、その他、今後のスケジュール等について事務局から説明を行った。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以 上